

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代に対応できるよう、思考力・判断力を身につけ、心豊かな人間性を育む学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「人をつくる」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 すべての教育活動において、きめ細かい指導を行い個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤や他者を思いやる心を育成する。
- 3 学校行事や部活動への積極的参加を促し情操面を豊かにし、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。

2 中期的目標

【1】 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア) 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
- イ) 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
- ウ) 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。  
※ 教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」の目標値は4.3以上とする。

(2) 生徒のニーズに対応したクラス編成

- ア) 生徒の多様なニーズに対応し、3年コース(発展文理クラス・発展探究クラス)として教育活動を実践する。(令和3年度より改正)  
また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。
- イ) 発展文理・発展探究クラス共に3年後の進路実現はもちろんのこと、探究活動を通して主体的な姿勢を育み自ら夢や目標を達成する意欲を高める。
  - ・ 発展文理クラスは応用的な内容まで掘り下げた授業を展開する一方で、学習のみならず何事にも深く追求する姿勢を育む。
  - ・ 発展探究クラスは週に1単位「総合的な探究学習(G-pro)」の時間を設け、主体的に課題解決に取り組む活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて学習意欲や行動力を高める姿勢を育む。  
※ 生徒評価アンケートにおける「満足度」の目標値は4.2以上。(令和5年度 4.1) 向上できるように努力する。

(3) 進路指導

- ア) 生徒が、自ら夢に向かう進路実現ができるように また、主体的により良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。
- イ) 自分の進路について主体的にまた積極的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。
- ウ) 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、生徒・保護者との面談を大切にしながら進路相談や進路支援を行う。個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路の探究、相談や支援を行う。  
※ 生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」の目標値は4.2以上。

【2】 学習面において時代の変化に対応した、「主体的な学び(探究)」を実践し、きめ細かい指導を通して生徒自らの夢や進路を実現するため確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア) 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。
- イ) 授業に創意工夫を行い、ICT機器(タブレット)を積極的に利用し、効果的に分かりやすい授業を行う。
- ウ) 基礎学力の向上をめざすため、放課後学習・休暇中の講習や活発な自習室活動を実施する。
- エ) 探究活動(発展探究クラスの「探究」授業含)を通して、生徒自らが課題に向けて考え、協働する力を養い、夢の実現に向け、学習意欲や課題解決能力を高める。  
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」の目標値は4.2以上。(令和5年度 生徒4.2 保護者3.9)と保護者の満足度には努力が必要である。  
引き続き目標値を超えるよう努力する。

(2) 人権教育

- ア) 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいの有無にかかわらず、多様性を尊重する障がい者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。
- イ) いじめ等を未然に防ぐため各学年、担任による日直面談を行い、年に2回「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
- ウ) 学年毎にテーマを決め、人権教育を行う。
- エ) 12月の人権週間には人権講演を実施する。  
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 生徒4.0 保護者3.8)と保護者の評価は目標値を下回った。令和6年度には目標値を達成する。

【3】 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて主体性を持った豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア) 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
- イ) 生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも継続的に取り組む。
- ウ) 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施する。日常生活での基本的なマナー及び公共施設や交通機関でのマナーの向上に努める。  
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を守らせる指導」の目標値は4.2以上。(令和5年度 生徒4.2 保護者4.0)であり、引き続き努力する。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア) 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識をもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。
  - イ) 情報モラル講演会などにより、スマートフォン、タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。
  - ウ) 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。  
※ 教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」の目標値は4.2以上。(令和5年度 4.3)であり、評価は高いが、保護者の評価の向上に努力する。  
※ 保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」の目標値は4.2以上。(令和5年度 保護者4.1)と昨年より向上した。保護者の一層の評価向上に努力する。

(3) 学校行事・部活動や探究活動

- ア) 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
- イ) 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にする。
- ウ) 全クラスで取り組む探究活動、発展探究クラスでの「探究(G-pro)」授業を充実させる。また、文化祭・体育会では、生徒会を中心に自主的に活動できる機会にする。  
※ クラブ活動や行事の目標値は4.1以上。クラブ活動(令和5年度 生徒4.2 保護者3.9)、行事(令和5年度 生徒4.3 保護者4.3)と高評価ながらもクラブ活動へのニーズには検証が必要である。次年度に向け、検討をすすめる。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア) 生徒が抱えている問題に対して、支援コーディネーターを中心に生徒相談係が一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。
- イ) 保護者、ICP(臨床心理研究所)と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。  
※ 生徒評価アンケートでの「個人面談等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度3.9)昨年同様努力が必要。令和6年度には目標値に達したい。

【4】 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア) 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
- イ) 生徒会活動を通してボランティア活動等で地域に協力する。  
※ 保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 3.8)と0.1向上した。令和6年度は目標値を達成したい。  
※ 生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和5年度 3.7)と低迷しており、令和6年度強化に努力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[(令和5年度)2023年11月実施]	学校協議会からの意見
<p>評価項目:教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う            評価方法:各項目について、5段階評価で行う            5:大変そう思う 4:どちらかといえば思う 3:普通            2:あまり思わない 1:全く思わない</p> <p>○全体評価            ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒 4.3・保護者 4.2と昨年に比べ少し。高評価ではあるが、引き続き分析をしっかりと行い、これからも良い評価を目指す。</p> <p>○学習指導等            ・文部科学省提唱の「生きる力」を育む教育に向け、取り入れた主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングや ICT を利用した授業により、生徒の授業に対する取り組みの評価は、教員 4.1、生徒 4.2となっている。教員は新学習指導要領による改善を熟知しながら、生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。</p> <p>○生徒指導等            ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行いました。教員の自己評価は 4.2 と昨年同様高評価となっている。より一層、子供たちの基本的な生活や活動を援助できるよう努力したい。            ・社会の変化により、価値観の多様化が進んでいる。それに伴い、人権意識がより高まり、個々が生きやすい社会が目指される。そんな中、「いじめの対応」についてそれぞれの事象が背景・個々の性格等、一つ一つのケースが異なるため、教員の対応にも多面的な見方が必要とされる。教員自身の自己評価は 4.3 と昨年より 0.2 ポイント上昇した。教職員はチームとなり対応に努力し、一人ひとり問題に対して真摯に向き合う姿勢を大切にしている。生徒の評価は 4.0 だが、保護者から見た評価が 3.8 と目標を下回っているのは、面談や教育活動において子供たちの生徒の声を聴き取る対応に満足できていないからと思われる。今後も引き続き、教職員の研鑽を重ねたい。</p> <p>○学校運営            ・学校運営・学校経営について、昨年に比べ、教員による自己評価は 4.0 と向上した。学校の置かれる状況に理解が広がりつつある。教員間の相互理解のもと、私学人として少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう今後も努力を続けたい。            ・学習に関する評価では、教員の自己評価はほぼ4.0以上と高い。しかしながら、「学習の遅れている生徒への支援」については3.7と昨年度より0.1ポイント下降した。少子化や多様化に伴い学習に意欲が持ちにくい生徒の数も増加傾向にある。教員が一人ひとりの生徒の実情に合わせて生徒への学習支援について努力できるよう、環境改善や校務のスリム化に努めたい。生徒のあり方に合わせ、より良い指導ができるようにする。            ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については探究教育や人権教育など計画的に実施しているが、自己研鑽や研修、またオンライン研修などへの参加は依然として少ない状況にある。また、研鑽内容の共有などの機会が持たず、教員の評価も少し向上しつつも3.7と低い。中学校は校務が多岐にわたるため、校務の整理を引き続き課題とし、教員相互の授業見学など各教員の資質向上を目指し、積極的に自己研鑽を進めていきたい。</p> <p>【分析】            今年度の学校評価については、通常の学校教育活動に戻り、すべての行事を通常に戻し実施することができた。コロナ禍を機に、行事の見直しも引き続き止めることなく改革し、生徒が主体性を持ち、満足できる教育活動に変革を目指す。加えて ICT 教育など変化への対応も加速でき、学校全体に活気が戻りつつある。            生徒・保護者の学校評価もいくつかの課題は残すが、概ね 4.0 に近い評価を得ることになり、日常への感謝を生徒とともに感じるとともに、当たり前を大切に次年度の一層の向上に努めたい。            ICT を活用した教育や生徒主体型の行事改革など、PDCA を繰り返し、今後も、完成に向けて努力し、より満足いただけるよう教育の質を高めるため、再考の必要な項目や評価の低い項目を注視し、改善の対象にしたい。</p> <p>学校目標            目指す学校像として「変化が加速し、多様な課題解決に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を身に着け、心豊かな人間性が育む学校をめざす」という掲題のもと教育活動を行っていきけるよう、伝統を重んじながらも、改革、改善や進歩が必要な事項を改め、向上への努力を続けたい。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう、全職員も努力し、取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 学校経営計画について</p> <p>○ 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価</p> <p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価</p> <p>○ 結果</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価  
令和6年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する</p>	(1)私学の独自性	<p>ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。</p> <p>イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深める。</p> <p>ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。</p>	<p>ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践目標を4.3以上とする。(令和5年度教員4.4)</p> <p>イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等をわかりやすく説明する。(令和5年度生徒3.9 保護者4.1)</p> <p>ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。また、宿泊行事、社会見学など多彩な行事を通じて教育方針に基づいた活動を実践する。(令和5年度生徒4.2)</p> <p>イ、ウの目標は4.2とする。</p>	
	(2)生徒のニーズに対応した教育活動	<p>ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。</p> <p>イ. 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現する。</p> <p>ウ. 発展文理クラスは、日々の確認テストや学習目標の設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現へのニーズに対応する。</p>	<p>ア. 授業評価を検証し、改善し実行する。目標値を4.2以上とする。</p> <p>イ、ウ. 発展探究・発展文理の2つのクラス編成による、新しい教育活動への移行が完了した。より充実したカリキュラムになるよう、検証し、発展させる。(令和5年度 生徒4.1 保護者4.0)</p> <p>それぞれの学年の満足度目標値を4.2以上とする。</p>	
	(3)進路指導	<p>ア. 生徒が、自分自ら夢に向かう進路実現ができるように また、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 自分の将来について主体的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。</p>	<p>ア. 生徒の将来を見据え、探究活動を通じて自己発見や進路情報の提供や進路ガイダンス(令和5年度生徒4.1 保護者3.8)を行う。目標は4.2以上とする。</p> <p>イ. 探究活動を通じて、自ら考え、自己肯定感を高めつつ、進路選択できる力を養成する。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。(令和5年度は生徒4.1・保護者3.8) 4.2以上を目標とする。</p>	

(1)教科指導

ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。

イ. ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し創意工夫をする。

ウ. 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施する。

エ. 自らの課題に向けて考え、協働し、自己肯定感や学習意欲を高めるために探究活動を実施する。

(2)人権教育

ア. 「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。

イ. いじめ等の予防、早期発見のため、各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。

ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。

エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。

ア. 教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習や AL を取り入れ、より一層の充実を図る。目標を 4.2 以上とする。  
(令和 5 年度 教員 4.1)

イ. 教員による授業への創意工夫を行い、ICT機器の有効活用を通じ、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.3 以上とする。  
(令和 5 年度教員 4.3)  
生徒・保護者による「授業は分かりやすいか」には (令和 5 年度 生徒 4.2 保護者 3.9)との開きがある。原因の分析を行いその手立てを実践するためにも両者の目標値を 4.2 以上に設定する。

ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行う。  
令和 5 年度教員 3.7 と評価が下降した。教員による生徒の学力向上への取り組みは、令和 5 年度 生徒 4.2 保護者 3.9 教員 4.2 で、保護者の評価向上に努力する。生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲は 4.2 を目標とする。

エ. 探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心が持て、意欲が得られるようになることを目標とする。  
(令和 5 年度 教員 4.3)

ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しているが、(令和5年度教員4.5)であり4.3以上を目標とする。

イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切かについては 令和5年度 生徒4.0 保護者3.8 とまだ保護者の評価は低い。特に日直面談を充実させる。目標は4.0以上とする。

ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践する。(令和5年度教員4.2) 4.2以上を目標とします。

エ. 全学年、および各学年の人権講演会や道徳的な行事については 令和5年度生徒4.2 保護者3.9とやや満足度が低下傾向となった。より丁寧な人権教育を継続し、目標を4.2以上とする。

<p>3 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	<p>(1)生活指導</p>	<p>ア. 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも積極的に取り組みます。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動を実施する。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじるは（令和5年度4.0）で向上が必要である。目標は4.2以上とする。 また、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導（令和5年度生徒4.2 保護者4.0）と評価は安定している。引き続き4.2以上を目標とする。</p> <p>イ. （令和5年度 生徒3.9 保護者3.8 教員4.1）である。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行ない、学校月間目標により、さらに啓発を行う。目標値は4.0以上とする。</p>
	<p>(2)危機管理と情報公開</p>	<p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。 特に SNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。</p> <p>ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p>	<p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備（令和5年度教員4.2）及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は（令和5年度4.3）はどちらも良い評価である。 4.2以上の目標とする。</p> <p>イ. 情報機器（スマートフォン・タブレット等）の正しい使い方では（令和5年度 生徒4.1 保護者3.7 教員4.3）と保護者が生徒に対する信頼がまだ低い。 4.0以上を目標とする。</p> <p>ウ. 情報公開については、努力により保護者の満足度が向上しつつある。（令和5年度 保護者4.1 生徒4.4）よりわかりやすい方法により4.2以上を目指す。</p>
<p>4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献</p>	<p>(3)学校行事や部活動</p>	<p>ア. 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。 文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。</p> <p>ウ. 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付けると共に、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させます。</p>	<p>ア. 説明会やガイダンスなどで、部活動への参加を奨励する。 （令和5年度 生徒4.2 保護者3.9）4.1以上を目標とします。</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に考え、行動できる生徒を育てる。（令和5年度 生徒4.3 保護者4.3）通常の学校生活に戻り、評価が向上している。高評価を継続する。4.2以上を目標とします。</p> <p>ウ. 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てる。</p>
	<p>(4)課題を抱えている生徒への支援</p>	<p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。 担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。</p> <p>イ. 問題解決の部署として ICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なう。 （令和5年度教員4.2）目標は4.2以上とする。</p> <p>イ. 面談等の満足度は低迷している。（令和5年度 生徒3.9 保護者3.8）各教員に積極的に働きかけ、活性化を試みる。 4.0以上を目標とする。</p>
<p>保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。</p>	<p>ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。</p> <p>イ. 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見るPTA活動は、通常の教育活動に戻ったが、（令和5年度 保護者3.8）とまだ低い。 さらに工夫を加え、新たな活動企画に努力する。目標値は4.0とする。</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は（令和5年度 生徒3.7）である。活性化に向け、生徒全体に啓発し、支援努力する。 目標値を4.0以上とする。</p>	